

兵庫県保険医協会第39回尼崎支部総会記念 市民公開企画

ご家族・スタッフもぜひご参加ください!

【第Ⅰ部 15:00～16:06】

映画上映会 DVDドキュメンタリー作品(56分)

「アフガンに命の水を～ペシャワール会26年目の闘い～」

—あらすじ—

アフガン東部。数年前まで荒れ果てていた大地が、豊かな麦畑に変わろうとしている。荒れ野を麦畑に変えたのは一本の用水路からの水。そして、その用水路の建設に当たったのは数十人の日本人と延べ60万人のアフガン農民たち。建設の陣頭に立って来たのは日本人医師・中村哲さん。中村さんはアフガンの状況をこう喝破する。「ここで起きていることは政治の問題ではなく“パンと水の問題”だ。アフガンに必要なのは農業ができる環境であって、軍隊ではない」と。国際社会が“アフガン問題”を巡り議論を繰り返す裏で、戦乱と干ばつは日々深刻さを増し、一刻の猶予もない状態。中村医師は渾身の力でこの状況と戦っている。泥沼化するアフガン問題への一つの“解”を示すために。(日本電波ニュース社より抜粋)日本電波ニュース社HP ⇒ <http://www.ndn-news.co.jp/>

【第Ⅱ部 16:10～17:00】

講演会 「音楽療法を体験してみよう」

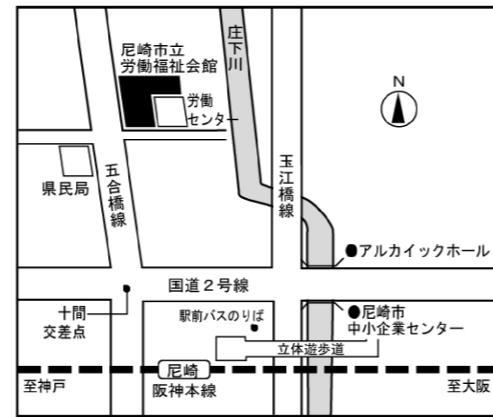
講師 兵庫県立塚口病院 音楽療法士 中西 幸氏

医療や介護の現場で、認知症の高齢者や知的障害の子どもたちとの会話がすすまないことがあります。そのような方々に音楽を使うとコミュニケーションがしやすくなります。音楽療法とはどのようなものか、実際に老健施設や小児科で音楽療法をなさっている中西幸先生にお話していただきます。簡単な実技も交えての勉強会です。

日時: 7月17日(土)

会場: 尼崎市労働福祉会館中ホール

参加費: 無料 ※事前申込制。当日は参加券等は不要です。
※第Ⅰ部のみ、第Ⅱ部のみでもご参加いただけます。



総会議事(14:30～14:55) 於・3階第2教室
記念企画(15:00～17:00) 於・3階中ホール
懇親会(終了後) 於・3階第2教室

FAX 返信 : 078-393-1802

(切り取らずに FAX ください)

- 総会議事に 参加します 欠席します (議事の一切を議長に委任します)
- 記念企画に 参加します 欠席します
- 懇親会に 参加します 欠席します

医療機関名 () ご氏名 ()

お問い合わせは、尼崎支部担当 長澤・荒川・駒ヶ嶺・高山(TEL:078-393-1803)まで

兵庫県保険医協会 尼崎支部ニュース

311号
2010年6月25日付

〒660-0055 尼崎市稲葉元町2-11-10 八木クリニック内
兵庫県保険医協会尼崎支部 TEL06-6417-6600 FAX06-6417-6011

＜感想文紹介＞第76回医療と福祉を考える会

共に楽しむ「音楽療法」

尼崎支部は5月27日、尼崎市中小企業センターで医療と福祉を考える会を開催。県立塚口病院・音楽療法士の中西幸氏が「音楽療法を体験してみよう」と題して講演し、医師・歯科医師・コメディカル40人が参加した。以下、感想文を紹介する。

尼崎支部主催で、5月27日夜、県立塚口病院・音楽療法士の中西幸先生の「音楽療法について」のお話をお伺いしました。中西先生は音大出身で、はっきりした元気な大きな声で、またにこやかに、聴く者をふんわりと包み込む雰囲気の中で、楽しくお話と実際の音楽療法の体験をしました。



実際に音楽療法を体験

先生は病院で主に小児科の子どもたちのベッドサイド、外来、婦人科更年期外来など、また外に出ては色々な施設を回って、「音楽」を使って皆を笑わせたり、リラクゼーションをさせたり、色々なリハビリをされているとのこと。

要約すれば、「音楽療法」とは非言語的コミュニケーションであり、そのもの自体が皆に比較的に受け入れやすくかつ好きな人の多い音楽という媒体を使って、人間の心身に働きかけてより良い状態に変化させることを目的にしています。皆それぞれの人生の中に思い出とともに音楽があります。

方法は、まず静かな音楽を聴き深い呼吸とともにリラクゼーションを促します。そしてそれぞれの抱えている対象者の問題点や音楽への興味に合わせて、リズムに合わせて体を揺すったり、楽器(鳴子、鈴のついたおもちゃなど)で手や腕を動かすきっかけとなったりします。歌の歌詞(童謡、民謡など)を歌って呼吸運動や舌の運動や、また色々な話題に繋がったりなど、知らず知らずのうちに楽しみながらのリハビリになっていきます。これが「行動療法的音楽療法」です。

そして個人の持っている様々なコンプレックスを、音楽を楽しむ集団の中で自然に自己と周りを受容しつつ自己表現、社会性へと繋がるより良い状態に導く「自己実現的音楽療法」へと広がっていきます。

押し付けでなく、指導者も共に楽しんで、相手を尊重しその人らしく共有することを目指すひとつの手段が音楽療法といえるようです。診療の場で、患者さんとのコミュニケーションなどにおおいに活かしていきたいものだと思います。

中西幸先生と講演会の企画をしてくださった関係の方々へ感謝いたします。【川辺郡 森 明美】

県立尼崎病院と塚口病院の統合再編問題

「塚口地域に医療空白つくりたくない」



市民ら約50人が参加した

協会も参加する「県立塚口病院の存続と充実を求める会」(代表・畠中正昭支部幹事)は5月22日、塚口さんさんタウン2番館・コミュニティホールで「新病院建設を考える懇談会」を開催した。

兵庫県は、県立尼崎病院と塚口の両病院を統合し、「新用地に700床程度の新病院を建設し、両病院跡地に200床程度の病床の活用を基本に医療・福祉施設などの誘致に努める」とする「統合再編基本構想」を決定している。

懇談会では、「新病院が建つ新用地はいつ決まるのか」「塚口病院の跡地には病院が建つのか」など基本構想の進捗状況についての質問のほか、「塚口の跡地には必ず総合病院を建ててほしい」といった要望が市民から多く出された。

また、当面の県への要望として、①基本構想の内容の完全実現、②県立病院の跡地に200床程度の病床を確保すること、③現在の塚口病院における救急体制の充実(人員体制の確保)、④地元住民との系統的な協議の場の設置、⑤基本構想の推進に関する情報公開などが確認された。

「高い国保料」怒りのテント

一尼崎社保協が市役所前で街頭宣伝

尼崎社会保障推進協議会は、市内に今年度の国民健康保険料の通知がされた直後の6月14日、15日の2日間にかけて、尼崎市役所前で国保料引き下げを求める署名行動を行い、2日間で延べ44人が参加、約800筆の署名が集まった。また同日、市役所隣の橘公園に設置されたテントでは、国保料や住民税などに関する相談活動も行われた。

「昨年失業して全く収入がないのに月1万円の国保料なんて払えない」とテントを訪れた市民は、相談員に「所得ゼロの住民税の申告をすると7割軽減が適用される」ことを聞き、すぐさま市役所に申告に向かった。そのほか「年収の2割なんて保険料は払えない」「国保証があっても医療費が高くて払えない」といった相談者が次々と訪れ、減免制度や生活保護などの申請などにあった。



2日間で約15人が相談に訪れた

尼崎アスベスト訴訟

尼崎 1000人がクボタ包囲「人間の鎖」

アスベスト「クボタショック」から5年を迎えた5月30日、クボタの責任と国の不作為を広く訴え、すべての被害者の救済を求めようと、尼崎市のクボタ旧神崎工場を包囲する「人間の鎖行動」が行なわれ、近隣住民など1,000人が工場を包囲した。包囲行動は、尼崎アスベストの会と3つのアスベスト裁判をすすめている原告団、医療関係者、労組、市民団体が実行委員会をつくって呼びかけてきたもの。

午後3時10分、「いま人間の鎖が完成しました」の宣言に大きな拍手がわき起こった。



旧神崎工場を包囲する人々



被害者救済を訴える船越正信代表

行動に先立って行なわれた西川公園の集会には、一審で勝訴した泉南アスベスト国家賠償裁判弁護団や香川県のアスベスト裁判の代表もかけつけ連帯の挨拶。

尼崎アスベストの会代表・実行委員長の船越正信先生から「10万人と予想される今後の被害者すべてを救済するために、飛散の責任や、不作為を認めないクボタや国を包囲し、すべての被害者への謝罪と救済・補償を求めよう」と訴え、アピールを採択した。協会から脇野理事、藤末評議員、野村医院職員ら16人が参加した。

第437回 幹事会だより

5月21日(金) 於 園田・王府楼 参加: 9人

- 尼崎支部の会員数と組織率
5/21 現在 医科 380人 (82.4%)、歯科 132人 (51.4%)
- 医療をめぐる情勢と運動対策
参院選挙、消費税増税問題、日米安保問題、県立病院の統合再編問題、自治体請願、署名・宣伝行動等について意見交換した。
- 当面の支部活動
7月17日(土)14:30～労働福祉会館にて第39回支部総会、7月28日(水)13:30～金楽寺住宅にて健康教室を開催予定。
- 次回の幹事会
6月25日(金)20時から立花・「アッパ」で開催予定。

お問い合わせはTel 078-393-1803 長澤まで